

# いこいの村

## 第355号

題字 梅の木寮（ユニット型）

2011年（平成23年）12月20日発行

第355号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>



# 行ってききました秋遠足



綾部東部デイサービスセンター



「久しぶりの海の景色！」（高浜方面）



「ごっつお（ごちそう）やなあ」（和知方面）

火曜日を支える男性陣（綾部安国寺）



ました。

「デイサービスやで、こないに遠くまで来れるんやな」「この土産はな、近所の人にあげるんや」「行く前から、行ってからも楽しまれた皆さん。戻って

綾部東部デイサービスセンターでは、「秋の遠足」に出かけました。夏頃から、各曜日の利用者に行き先を相談すると、「車いすでも行ける所へ」「バイクングがええわ」等、自分のことや皆の事をお互いに考えた内容となりました。各曜日、和知、福知山、三和、舞鶴、高浜各方面に決め、景色やお食事、お土産選びや道中のおしゃべりを満喫されました。

## 2011年 いこいの村3大ニュース

1位

3.11 東日本大震災が発生、いこいの村も被災地へ物資の提供などの支援をしました。

2位

グループホーム、いこいの村・とくらの家  
ケアホーム、いこいの村・コスモス寮オープン！

3位

来年（2012年）10月20日（土）開催の、いこいの村30周年記念集会に向けプレ企画が始まりました！！

来られるやいなや、「楽しませてくれた。また春に皆で行きたいわ」「いくつになっても楽しい遠足、また御一緒しましょう。」  
（綾部東部デイサービスセンター 勝山貴至）

# 故郷に暮る思い



梅の木寮の小西雪子さん

(八十一歳)は名古屋生まれ

の名古屋育ちです。五人兄弟

の四番目として生まれ、耳が

聞こえないこともあり大切に

育てられました。

いこいの村での暮らしは栗

の木寮と合わせ三十年近くな

りますが、生まれ故郷を忘れ

られたことはありません。

## 「名古屋に」

### 帰ります」



一年に一度、職員の援助で

名古屋へ帰省する日々です。

毎年お盆が近づくと

「名古屋に帰ります」「お父さ

ん、お母さんのお墓参りに行

きます」としても楽しみにさ

れています。

ところが、去年は、帰省予

定の三日前に転倒して、胸椎

の圧迫骨折で帰ることができ

ませんでした。

翌年のお正月にも転倒して、

右上腕部骨折で手術をするほ

どの大けがをされました。



今日も、頑張ります。

手術後痛みが続き食欲もな

くなり、そしていつもの満面

の笑顔と笑い声もなくなって

しまいました。

職員は、そんな小西さんに、

「食へたら早く治るから、ま

た名古屋に帰れるから」と毎

日励まし続けました。

そしてリハビリには、「痛い

です」と苦笑しながらも頑張

## 「念願」



治り始めた頃から「今日、

名古屋に帰ります」と鞆を肩

からさげて帰ろうとされるよ

うになりました。そして、幸

いけがはないものの、繰り返

し転倒されるようになりまし

た。

それでも本人の願い、思い

を叶えたいと、今年十一月一

日、タクシーを貸し切り日帰

りで名古屋に帰りました。

墓地には、石段がところど

ころにあり、思うように足が

上がらず悪戦苦闘。

「来年は、来れません」と悲

しそうに言われる一幕もあり

ました。

やっこのことだどり着い

たお墓にお花とお線香を供え

「お父さん」「お母さん」と言

いながら手を合わせてありし

日を憶んでおられました。

## 「思い出の場所」



小学生の頃よく行かれた

東山動物園にも寄り、動物を

観て回り、観覧車にも乗りま

した。

「いかに、お母さんと来まし

た」といつもの満面の笑顔で

とても嬉しそうに景色を眺め

ておられます。その様子を、

来てよかったと心から思いま

した。

## 「希望を」



夕方名古屋から離れてい

くタクシーの車窓から、風景

を名残りを惜しむ様に見てお

られました。いつもと違う表

### 【掲載誤りのお詫び】

第354号において、下記の間違ひがありました。訂正するとともにお詫び申し上げます。

【3面】

誤 綾部ローターアクトクラブ・磯井麻美様

→ 正 綾部ローターアクトクラブ・磯井麻美様

【5面】いこいの村30周年記念行事開催日程

誤 2012年(平成24年)10月22日(土)

→ 正 2012年(平成24年)10月20日(土)

(梅の木寮ユニット型

森下 教子)



動物いっぱい見ました。



# 健康の豆知識

## マッサージについて

### マッサージとは

日本では、厚生労働大臣認定の国家資格として、あんまマッサージ指圧師資格があります。

『あんま』『マッサージ』『指圧』にはそれぞれの歴史や技法等の違いがありますが、資格としては一本化されています。三年間の指定学校や養成所を経て国家試験に合格した人に許される施術です。

三つの技法は、重なるところもあり、実際の施術では全ての要素を取り入れて行うことが多いです。



## マッサージの

### 目的・効果

手を使って人体に接触し、みほへしたり、叩いたり、押ししたり、ひっぱったりして血行をよくし免疫力(自然回復力)を高めることを目的としています。効果としては、肩こり、腰痛、筋肉疲労、不定愁訴(ふていしゅうそ)、全身疲労、内臓機能の低下などの改善がげられます。

また、禁忌(きんぎ)してはならない場合として高熱、高血圧、外傷、骨折、妊娠時などがあります。

マッサージの技法には効果を高めるために順番があります。まず対象の体の部分を充分(ちゆうぶん)すりませます。それからみほへ、叩く、ひっぱる、押す等の手技を行い最後にみほへして終わります。

お互いにする時も、いきなり叩いたりもんだりしないよう順番(じゅんばん)にします。

さて、血行をよくする(ちゆうこうをよくする)ことがマッサージ効果ですから、

例えば毎日、ラジオ体操をするとか、二〇〜三〇分歩けば血行が良くなりマッサージ効果は抜群で、あんまマッサージ指圧師の出番はなくなります。

他にも、首や手首、足首、腰をよく回したり肩を上下したり、ふくらはぎをよくもんで柔らかくするなどを習慣にしたり、バランスのよい食事をすることなどいろいろありますから血行をよくし健康を維持(維持)することを心掛けて毎日(まいにち)を過ご(すご)しましょう！

\*あはき師(鍼灸あんまマッサージ指圧師)

橋爪 博幸

(\*)注釈 いこいの村 利用者等に対して、あんま、マッサージ、指圧を行っています。



いこいの村 聴覚言語障害センター 所長 柴田 浩志

全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会での特別講演から

十一月十九日・二十日の両日、大谷大学で全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会が開かれました。

初日に行われた北星学園大学木下准教授による「地域・施設における合理的配慮」と題した特別講演は、障害者の住みよい社会を考える上で、大変参考になりました。

先生は初めに日本、ドイツ、アメリカでの調査から、日本人の意識として「障害者は特別な人である」「障害者は健康者と同様な生活はできていない」「障害者への配慮はほとんど必要ない」「負担が重いなら配慮しなくてもよい」という顕著な特徴があると述べられました。

障害者の平等を確保するための変更や調整 障害者権利条約で規定され

ている合理的配慮の具体的な例として「朝礼や会議で手話を持ちいる」「会議における事前資料の配布」「会議では絵文字・写真等を実際に映して説明している」等が紹介されました。

講演を聞き、「まず臆(おそ)い始めよ」「手近(てぢか)なところから始めるのが良い」といふ、まずは十二人の聴覚障害職員が働(はたら)くいこいの村において、会議や研修のあり方を改善し、合理的配慮の行き届いた職場作りを進めねばとの思いを強くしました。

今年もあとわずかとなりました。いこいの村では、皆様のご支援に心から感謝し、良き新年を迎えていただくため仲間・ボランティア・職員が力を合わせて、年末までしめ縄(しめなわ)作りに励みます。



